



「上島町の暮らし× SDGs」 ～見守りで支える高齢者の安心な暮らし～

日本は超高齢社会を迎え、一人暮らしや高齢者のみの世帯が増えています。その中で、大きな課題となっているのが「日常の見守り」と「緊急時の対応」です。体調不良や転倒が発見されにくい、緊急時に助けを呼べない、こうした問題は SDGs の目標である『目標3 すべての人に健康と福祉を』『目標11 住み続けられるまちづくりを』の実現において欠かせないテーマです。

① 普段の生活から見守る「ハローライト」

生活に自然に溶け込む見守りサービスとして、ICT 見守り事業（ハローライト）があります。

ハローライトは、普段の生活リズムをもとに異変を検知し、離れて暮らす家族等に通知が届きます。通信機器付LED電球を設置すれば始められるため、高齢者の負担なく見守りを実現できます。



(ICT 見守り事業について、詳しくはこちらをご覧ください。)



② いざという時を守る「緊急通報装置」

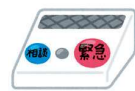
日常の見守りに加え、急な体調不良や転倒など、緊急時の備えも重要です。

緊急通報装置は、ボタン一つで外部に連絡できる仕組みで、迅速な対応につながります。

これにより、早期対応による重症化の防止、高齢者本人の安心感の向上といった効果が期待されます。



(緊急通報装置事業について、詳しくはこちらをご覧ください。)



◎ 高齢者の安全は、機器だけで守れるものではありません。

- ・見守りサービスなどの「技術」
- ・地域での声かけや支えあいといった「つながり」
- ・家族の「関わり」

これらが連携することで、安心できる暮らしが実現します。



■ 問い合わせ

企画情報課 ☎ 77-2500

これから見守りシステムの技術はさらに高まると考えられます。しかし、最も大切なのは『人と人とのつながり』です。技術を活用しながら地域全体で支えあうことで、誰もが安心して暮らせる社会の実現につながります。

高齢者の安全対策は、SDGs の理念である「誰一人取り残さない社会」の実現そのものです。見守りと緊急時の備えを組み合わせ、地域全体で支えていくことが、これからの社会に求められています。

見交換を行い、翌日のサイクリングイベントにおいても観光署長（観光庁長官）の陳玉秀（チンギョクシュウ）氏の歓迎を受けました。

また、日本台湾交流協会の台北事務所も訪問し、しまなみジャパンや各市町の観光産業等について意見交換を行うなど、滞在時間42時間の強行軍でしたが、各会場において積極的に上島町のアピールをしてまいりました。

上島町は今後も台湾との自転車交流を大切にし、友情を育みたいと考えています。

しまなみ海道はすでに自転車の聖地として世界的に有名になっていますが、上島町の「ゆめしま海道」にも更に外国からも多くの観光客が訪れていただけのチャンスがあります。

本年は、4年に1回の大規模な「サイクリングしまなみ2026」、来年は自転車の国際会議 VELO-CITY が日本で初めて開催され、上島町にも多くの外国のお客様がご越しになります。

「ゆめしま海道」は、日本のサイクリングロードです。上島町の価値を日本のみならず海外に知っていただける大きなチャンスですので、町民の皆さまのご協力をよろしくお願い申し上げます。

上島町長 上村俊之

上島町 先田名後 一般廃棄物最終処分場埋め立て容量超過問題にかかる第1回第三者委員会を開催

上島町先田名後一般廃棄物最終処分場埋め立て容量超過問題にかかる第1回第三者委員会が7月2日（木）、弓削総合支所3階第1会議室および第3会議室で行われました。

愛媛県弁護士会および広島県弁護士会から推薦を受けた委員に上村町長から委嘱状と諮問書が交付されました。

委員会では半年程度の調査を行い報告書の作成を行う予定です。

第三者委員会諮問事項

- (1) 不適正な事務執行や行為等の経過の検証に関する事
- (2) 不適正な事務執行や行為等の再発防止策の提言に関する事
- (3) その他第三者委員会が必要と認める事項に関する事

第三者委員会委員名簿

役 職	氏 名 (敬称略)	所 属	備 考
委 員 長	よりい 寄井 真二郎	しまなみ法律事務所	愛媛弁護士会推薦
副委員長	さとう 佐藤 真奈美	広島法律事務所	広島弁護士会推薦
委 員	くどう 工藤 勇行	法律事務所八丁堀法律センター	広島弁護士会推薦

